



今年度のESDの重点目標（取組）

○生活科・総合的な学習の時間を軸とし、情報活用能力やESDの視点を盛り込んだ単元配列表を見直し、活用していく。

○SDGsの視点で教育計画を見つめ直し、地域と連携を図りながら、自然や社会に貢献しようとする児童を育てる。

【令和4年度 ESD 実践報告】

01 ESDの視点を盛り込んだ単元配列表の見直し



昨年度、「ESDの構成概念」「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力」の視点を盛り込んだ単元配列表を作成した。今年度は、それを見直し、より教科・領域や単元のつながりを見える化することができた。職員室の印刷機周辺に掲示し、日頃から目にするようにし、PDCAサイクルにも取り組んでいる。

02 奉仕活動（第6学年）



安全で過ごしやすい学校にするため、朝の登校時間に、奉仕活動を行っている。グラウンド整備や落ち葉掃き、側溝掃除など、季節や気候に合わせて児童自身がやるべきことを考え、主体的に活動する姿が見られた。落ち葉を集めてアート作品を作るなど、楽しみながらも活動できた。



03 体の成長とわたし（第4学年）



保健では、思春期におこる体や心の変化について学習した。使用したパワーポイントでは、ジェンダーに配慮した配色にした。また、男女一緒に学習することで、互いの体のつくりを理解し合うことができた。養護教諭と一緒に授業づくりを行い、自分の性に対する違和感をもつ子どもも安心して授業に参加できる言葉掛けを用いることを意識した。



04 花ややさいとなかよし（第1学年）



生活科の学習でサツマイモを育てた。登校すると「おおきなあれ」と愛情をもって水やりをし、大切に育てていた。収穫したサツマイモを使い、茶巾しぼりを作って食べたり、つるでリースを作ったりした。植物の生命力に触れ、身近な自然が自分の生活を豊かにすることに気付いていた。



05 あいさつ運動と相談ボックスの設置（委員会活動：児童会）



誰もが安心して学校生活をおくれるように、あいさつ運動と相談ボックスの設置を企画した。あいさつ運動は児童会と生活委員会が登校時間に行っていたが、各学年からボランティアを募り、今では全学年で行っている。元気のいいあいさつが全学年に浸透し、活気のある学校生活となった。



また、普段感じている不安を解決できるように、相談ボックスを設置した。様々な相談に児童会が丁寧に対応し、同じ子どもの目線で寄り添ったアドバイスをすることができた。たくさんの相談が寄せられ、大好評であった。

